

国見の輝き人

全国大会ベスト 8 の栄冠——

りお
佐藤 璃央 さん (滝山)

高校 3 年間の部活動を振り返って——

3 年生までレギュラーではありませんでしたが、一生懸命に練習に取り組んだ結果、レギュラーになりました。勉強と部活の両立は大変でしたが、自分なりに努力してどちらも良い結果が残せたと思っています。以前は自分からコミュニケーションを取ることが苦手でしたが、チームに留学生がいたこともあって、苦手意識を克服できました。3 年間の部活動をとらえて、人間的にも大きく成長できたと思います。

今年度の全国大会に出場した感想は——

私が入学する数年前から、夏・冬連続で全国大会に出場したことは無かったそうです。特に、3 年連続でのウィンターカップ出場は東陵高校では初だったので、そのチームのメンバーでいられたことは私の誇りです。

夏の大会は、とてもワクワクしていたことを覚えています。私自身初の全国大会だったので、とてもやる気に満ちていました。試合では何本かシュートを決めることもできたし、心身ともに好調で気持ちが高揚していました。冬の大会では、これが最後の大会、自分ができることを全て出し切るという覚悟を持っていました。自分から積極的に声を出して、チーム全体を盛り上げていこうという気持ちで大会に臨みました。

今後の抱負を教えてください——

地元企業に就職が決まっているのですが、今後も何らかの形でバスケットボールと関わりを持ちたいと思っています。また、地元の子どもたちや後輩に、バスケットボールの楽しさや魅力を伝えていけるような活動にも取り組んでいきたいと考えています。社会人になると、困難なことがたくさん出てくると思います。そんな時には、周囲の人と積極的にコミュニケーションをとって、バスケットボールで培った能力を発揮できるように一生懸命頑張りたいです。



福島東陵高等学校に通う佐藤璃央さんは、全国高等学校総合体育大会と第 74 回全国高等学校バスケットボール選手権大会に出場し、フォワードとしてチームの勝利に貢献。福島県勢では 25 年ぶりにベスト 8 の栄冠に輝きました。



▶全国大会でプレーする佐藤さん

町長
コラム



ま
真 こらむ

【第 7 回】

「観月台のベーゼンドルファー (vol.2)」

ピアノ検討委員会の直後、ベーゼンドルファーの購入を決めた富永町長。その後も気になる様子。日本総代理店の取締役との価格交渉が大詰めするとき、突然やってきて「一番格上のピアノを 1,200 万円に。中古ピアノも 1 台付けろ」と。慌てた。引地たちが考えていたのはインペリアルじゃない。取締役も驚いて社長へ電話。と、社長も社長だ。「国見を獲れ。損得じゃない。他のメーカーに譲るな」と。笑った。結局、町長と社長にやられた。

平成 6 年 3 月。選考試弾。磐田市の本店で板垣先生と 3 台のインペリアルを弾く、聞く。1 台が候補から外れる。残り 2 台。意見が分かれる。引地が推す 1 台は女の子。音が若くてお転婆だった。でも、観月台と一緒に時を重ね、少女から大人の女性に変わる様子を見たいと思わせる、そんな音色だった。そう話すと「未来ある人が選んだピアノを」と先生。



あれから 28 年。関係した人の多くが鬼籍に。創業から 200 年の間に造られたベーゼンドルファーはたった 5 万台。そのうちの 1 台がここにある。まだまだ淑女じゃないけど、歌えば彼女はウィーンの華やぎを運んでくる。

引地 真